

## 経済学研究 解答と集計結果

問1 Excel ファイルのうち「問1 ビーチレクリエーション」を用いて、以下の設問に答えなさい。なお、「ID」は回答者番号、「片道旅費」は自宅からビーチまでの片道分の旅費、「訪問回数」はビーチの訪問回数である。

(1)レクリエーション需要関数 ( $y = a + b * x$ ) を推定しなさい。ただし、 $y$  は訪問回数、 $x$  は往復旅費、 $a$  と  $b$  は係数である。

(2)全回答者の消費者余剰を計算し、その平均値を求めなさい。

問1 (20点) (1)  $y = 41.64747 - 0.0161x$  (10点)

(2) 9667.206 円 (10点)

問2 Excel ファイルのうち「問2 屋久島」を用いて以下の設問に答えなさい。なお、「ID」は回答者番号、「T1」は最初の提示額、「TU」は Yes 回答時の二回目の提示額、「TL」は No 回答時の二回目の提示額、「First」は最初の提示額に対して Yes のときに 1 となるダミー変数、「Second」は二回目の提示額に対して Yes のときに 1 となるダミー変数である。

(1)各提示額ごとに二回とも Yes (YY)、最初が Yes で二回目が No (YN)、最初が No で二回目が Yes (NY)、二回とも No (NN) の回答者数を計算しなさい。

(2)「Excel でできる CVM」のダブルバウンドロジットを用いて、支払意志額の中央値と平均値を求めなさい。

問2 (20点) (1) (10点)

T1	TU	TL	YY	YN	NY	NN
1000	3000	500	20	23	15	10
3000	6000	1000	15	18	17	15
6000	15000	3000	9	11	27	24
15000	40000	6000	2	16	24	39

(2)中央値 2925 (5点) 平均値 (最大提示額で裾きり) 6883 (5点)

問3 Excelファイルのうち「問3 釧路湿原」を用いて以下の設問に答えなさい。なお、各変数の説明はワークシート「説明」を参照すること。

(1)SPSSの「二項ロジット」を用いて推定しなさい。ただし、被説明変数は「Yes」、説明変数はLbid、MAN、User、Landscape、Linc」である。

(2)推定結果のうち有意ではない変数を削除し、最終モデルを推定しなさい。

問3 (20点) (1) (10点)

	係数	t	P-値
切片	4.962	23.293	0.000
Lbid	-0.810	91.596	0.000
Man	-0.073	0.089	0.765
User	0.252	1.011	0.315
Landscape	0.659	3.605	0.058
Linc	0.035	0.079	0.779

(2) (10点)

	係数	t	P-値
切片	5.192	60.465	0.000
Lbid	-0.806	91.579	0.000
Landscape	0.680	3.884	0.049

問4 本講義で用いた環境評価手法の利点と欠点について各手法別に論じなさい。(40点)

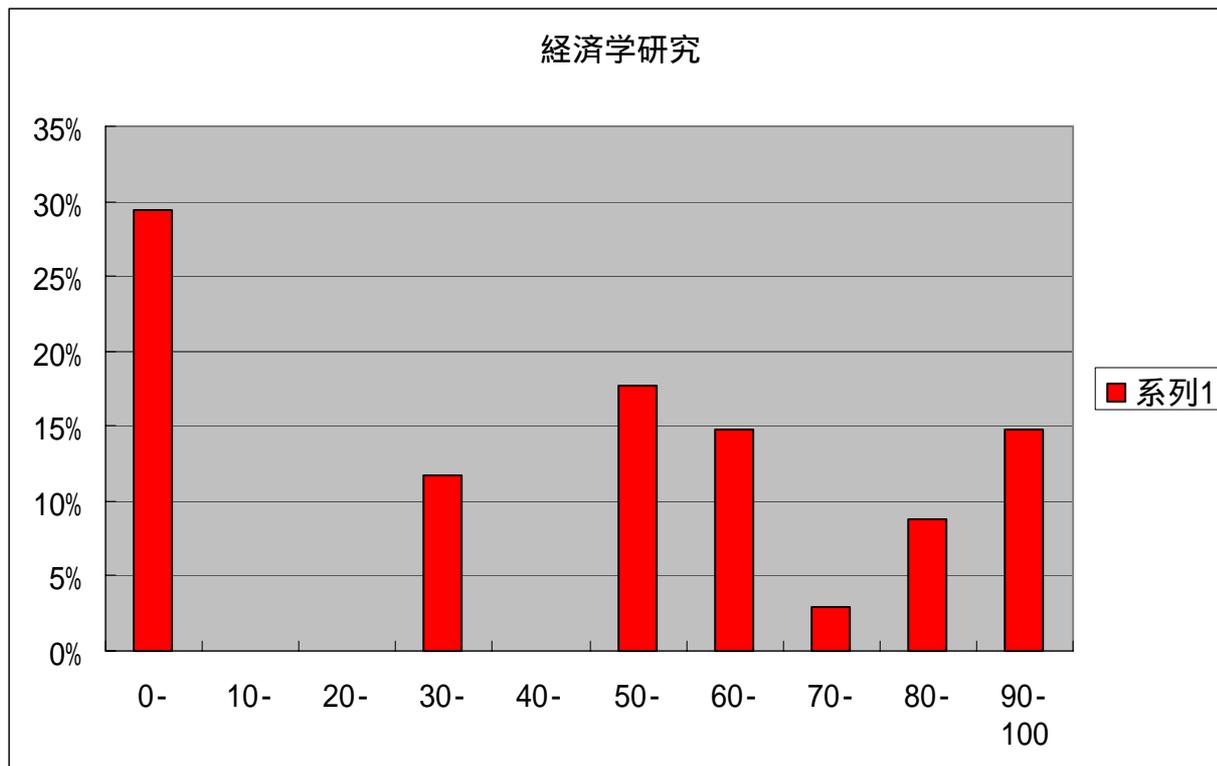
名称	特徴	利点	欠点
代替法	環境財を私的財に置換する費用により評価	直感的で分かりやすい、計算が簡単	代替可能な私的財が存在しない場合は評価できない
トラベルコスト法	訪問地までの旅費をもとにレクリエーション価値を評価	旅費と訪問回数のデータだけで評価可能	訪問によって得られる価値しか評価できない。
ヘドニック法	環境が代理市場に及ぼす影響をもとに評価	環境属性と地代や賃金などの市場データのみで評価可能	代理市場に影響しない場合は評価できない
CVM	環境変化に対する支払意志額や受入補償額を直接たずねて評価	利用価値だけではなく、非利用価値も評価可能	アンケートを用いるためバイアスが生じやすい

## 集計結果

	問1	問2	問3	問4	合計
配点	20	20	20	40	100
平均点	8.1	11.7	6.1	20.8	46.7

合計点 = 教場試験 (配点 100 点) × 0.9 + 出席回数 (10 回)

## ヒストグラム (合計点、素点)



## 成績評価

履修者数が少ないため、相対評価は用いていない。成績評価結果は以下のとおり。

秀	優	良	可	不可
19%	8%	17%	22%	33%

注: 不可は不受験者を含む